

# 訪れたいまち

千葉県香取市



香取市

千葉県

東日本大震災で、伝統的建造物から落下した屋根瓦に書かれた復興メッセージ。「江戸優り」のパワーがここにもあふれている。



佐原の大祭で曳き廻される山車

江戸時代のたたずまいを残す町並み。川をゆく舟。そこにはこの町を守ってきた人たちの熱い思いと、並々ならぬまちづくりへの努力があった。

## 水郷として知られる佐原

千葉県北東部、利根川に接し東京から70km、成田空港から25kmに位置する香取市。なかでも江戸時代に利根川を利用した、江戸との舟運が発達した水郷佐原は「江戸優り」と言われるほど栄えたまちである。今でも古民家が建ち並ぶ町並みが、当時の面影をしのばせる。

## 佐原に三つの宝

佐原には三つの宝がある。「佐原の大祭」、「伊能忠敬」、「重要伝統的建造物群」。7月と10月の年2回行われる「佐原の大祭」は、約300年の伝統ある祭り。国の重要無形民俗文化財に指定されている。大きな飾り物が据えられた勇壮な山車が、

佐原囃子とともに町中を曳き廻される。この山車は、江戸時代に経済的な発展を遂げた佐原の商家の旦那衆が、

江戸から連れて来た職人に豪華なものを競って作らせ、町中に見せたものと伝えられている。祭りのお囃子も特徴的だ。佐原囃子は下座囃子とも呼ばれ、山車の出入り、曳き廻しなどにそれぞれ違ったものが流れる。これも江戸文化の影響を受けて作られたと言われ、現在に伝わっている。伊能忠敬は全国を測量し、精度の高い日本地図を最初に作ったことで知られている。彼は50歳までこの地に住んでいた。今でも佐原に旧宅が残され、彼の残した資料が国宝として記念館に展示されている。重要伝統的建造物群保存地区に選定されている佐原の町並みは、舟運で栄えていた時代の姿を今に残している。

## 観光まちづくりへの挑戦

観光によるまちおこしの原点となったのが、宝の一つ佐原の大祭。「それまでは自分たちの祭りとして行ってきたものを見せる祭りへと変えました」と水郷佐原観光協会の増子さん。平成7年の秋祭りには公民館の駐車場に14台の山車を並べ、みん





八木の耳かき  
八木さん

手作りの耳かきを作る若き二代目。「この町に戻ると落ち着きます」ここにも佐原っ子が



創作料理「吉庭」  
オーナー 吉塚さん

「古民家をリフォームし、女性が落ち着いて食事ができるレストランを開きました」



佐原おかみさん会  
石毛さん

「水郷ならではの舟で下る雛(ひな)祭り、平成26年も3月に開催します」



佐原町並み交流館  
館長 小林さん

「佐原の町は江戸優り。張りりと粋で江戸(東京)に負けないまちづくりをバックアップします」



水郷佐原観光協会  
高須さん

「佐原観光で困ったら駅前観光案内所へ。レンタサイクルもあります」



水郷佐原観光協会  
事務局長 増子さん

「昔は近隣からの買い物、遊びといえば佐原だった。そんな佐原にしていければ」

ぜひ一度、水郷佐原にお越しください

佐原のまちは  
たくさんの方々の笑顔に  
支えられています



銘菓店 ほていや  
長さん

「伝統と歴史、佐原囃子が町の誇りです」



福新呉服店  
平塚さん

江戸時代の1804年創業。「まちぐるみ博物館」の1号館



香取神宮



三菱館  
大正3年建築、千葉県内でも有数の洋風建築(旧三菱銀行)



小野川と佐原の町並み

このような取り組みが実を結び、平成8年に小野川と町並みが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され宝の一つとなった。まさに「江戸優り」のパワー。

このように取り組みが実を結び、平成8年に小野川と町並みが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され宝の一つとなった。まさに「江戸優り」のパワー。

なで踊るなどの催しを企画。これらを観覧できる有料敷席を設けたところあつとつ間に満席になり、観光まちづくりへの道が開けた。並行して住民と行政が一体となる。町並みの保存活動を本格的に始める。中心となったのは、現在NPO法人として活動している「小野川と佐原の町並みを考える会」(佐原町並み交流館運営)。

まず、佐原繁栄の礎となった小野川をよみがえらせた。町の中心を流れる小野川は生活排水が流れ込み、古い自転車などが投げ捨てられているなど、ゴミ捨て場の様相であったため、住民が総出で清掃活動を展開。水質も良くなったこの川に舟運観光を復活させた。

次に町並みの保存。家の改築などの際に、外観を昔の姿に復元してもらい、市も助成でバックアップ。今では100軒以上が昔の姿を取り戻した。

町並みを見ながらそぞろ歩くと、同じような木の看板を掲げた家を見かける。まち全体を博物館として楽しんでもらおうと佐原おかみさん会が運営している「まちぐるみ博物館」の看板だ。

佐原おかみさん会には、それまでお互いつながりが無かったお店のおかみさんが集まって「たくさんのお客さんに来ていただいて、地元とお店を元気にしたい」(佐原おかみさん会・石毛さん)と立ち上げた。

佐原おかみさん会とまちぐるみ博物館



まち全体を楽しんでもらう取り組み「まちぐるみ博物館」

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」

「美しいまちなみ賞」は、美しいまちなみを創り、育てるために、行政と民間が協力し、ハードとソフトを含めた総合的な取り組みを行っている地区を全国から募集し、特に優れた地区を表彰するもの。平成22年度まで実施し、平成23年度から「都市空間部門」「景観教育・普及啓発部門」として実施。香取市佐原地区は市民協働によるまちづくりにより、平成18年度「美しいまちなみ優秀賞」受賞。

「皆さんの家が古い商家ですので、蔵などを探すと昔商売や生活に使ったものなどがたくさん出てきました。それを展示して、その商家のおかみに学芸員・博物館館長になつてもらいました。訪れたお客さんと会話が弾めば、佐原のファンになつてもらえるのでは」といふことで始めました」と石毛さん。

石毛さんの案内で何軒かの博物館を訪ねてみた。一枚の和紙から折られた連鶴、呉服屋さんの店内に置かれた古い道具たち、古い土蔵とスタンドグラスのコラボレーションなど、一つひとつに趣があり楽しい。「まちぐるみ博物館の良いところは、入館料が無いので、お客さんが気軽に入

て対話ができることです」（石毛さん。また、季節により企画展も行っている。

そんな佐原おかみさん会だが、悩みは人手が足りないこと。しかし、雛祭りのイベントでは町の人が協力してくれるなど、活動の輪が広がっている。

### 東日本大震災からの復活

町に観光客が多くなってきた頃、東日本大震災が起こる。佐原にも大きな爪痕を残した。伝統的建造物でも多くの屋根瓦が落ち、壁に亀裂が入った。液状化の影響で小野川の川底が盛り上がり、舟も運航できなくなった。さらに、原発事故の風評被害も重なり、観光客数が震災前の半分程度になってしまった。

そこで平成23年12月に、市が佐原観光復興推進会議を立ち上げ、観光協会を事務局に町の観光団体など一体となり、観光推進に取り組む。復興支援のツアーなどもあり、これをきっかけに最近では観光客が戻りつつある。

### 食のまち・佐原

「食」も佐原の魅力だ。特に関東に住む人には、利根川に近い佐原の食と言えばウナギを想像



古民家を利用した「吉庭」

しがちだが、近頃の佐原は少し違つ。特徴は古民家を利用したレストランだ。窓の外に広がる日本庭園が素敵な創作料理店、小野川の眺めを楽しみながらのフレンチ、隠れ家のようなイタリアン、そのほかにもカフェなど。有名レストランやホテルなどで活躍したシェフによる、地元の食材を生かした料理が楽しめる。今では地域の人はもとより、他の町からも多くの人がやってくるほどの人気となっている。「江戸優り」のパワーがここにもあふれている。

### 「江戸優り」佐原は魅力がいっぱい

平成26年も佐原は催しが盛りだくさん。雛めぐりや衣装を纏つて舟下りをする雛舟、さらに大祭などのほかに、4月には香取神宮で12年に1度の式年大祭が行われる。この機会に訪ねてみてはどうだろう。



水郷佐原ならではの「さわら雛舟」

### 1日楽しめる町へ

佐原では1日楽しめる町を目指して、観光への取り組みを進めている。今ある観光資源やイベントの充実をはじめ、水生植物園など水郷地方独自の観光資源との連携も視野に入れていく。この地域に多くあった無花果を最近復活させた。今後は無花果を使ったスイーツの開発など、来ていただいた方に、もっと佐原のファンにな

旅の最後に銭湯をのぞかせてもらった。ここもまちぐるみ博物館。一步入ると、昭和の雰囲気を感じ出す懐かしい空間がそこにはあった。湯船にはつからなかつた

が、聞いた話だとお湯が熱いらしい。さすが「江戸優り」だと感じた瞬間であった。



中村屋商店の連鶴



ほていやさんの蔵とモダンな内部



### まちぐるみ博物館

他にもたくさんのお見どころがあります



東薫酒造の雛人形



懐かしい道具が並ぶ福新呉服店



昭和レトロな銭湯「金平(かねへい)浴場」

# MLIT レポート 千葉県

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介!

Reporter

関東地方整備局  
利根川下流河川事務所  
地域連携課長

白井 知



板東大郎とも呼ばれる利根川の下流に「水の郷さわら」があります。この施設は佐原広域交流拠点整備事業として国と香取市が協働で整備したもので、一部の施設では、国土交通省が行う河川事業では初めてとなるPFI事業※を実施しています。

「水の郷さわら」は防災、水辺利用、文化交流、交通交流の4つの機能を持った施設で、実際に東日本大震災発生時には、近隣住民の一時避難やTECHORCE(緊急災害対策派遣隊)の活動拠点として活用されました。

普段は利根川の歴史や防災を学ぶことができ、災害時には災害対策拠点としての役割を持つ「河川利用情報発信施設」と、水の郷総合案内所が入る水辺交流センターなどがある「川の駅」、利根川の自然環境を生かし動植物の観察もできる「親水・湿地利用ゾーン」や、地域の魅力いっぱい「道の駅」、船で川を巡る「舟運観光」など、家族皆さんで楽しむことができる交流拠点です。

佐原へお越しの際は、ぜひ「水の郷さわら」へお立ち寄りください。

※PFI事業… 民間の資金、経営能力、技術的能力を活用しながら、公共施設などの整備や維持管理、運営などを行う手法。



さわらホールでの工作体験



堤防模型による破堤実験

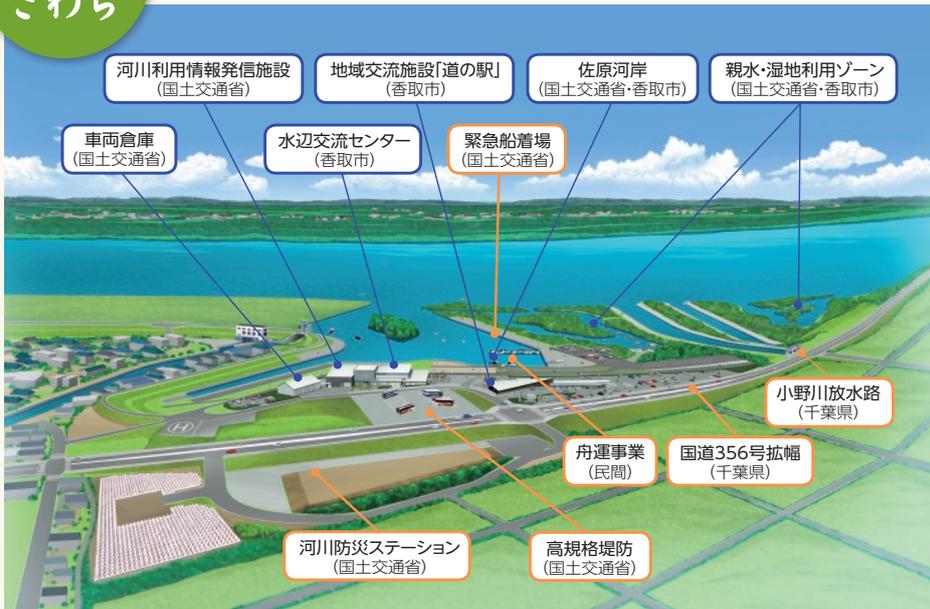


にぎわう特産品直売所



フードコート

## 水の郷さわら



小学生によるEボート体験



中学生による水生植物調査



利用者のふれあい

検索 水の郷さわら <http://www.e-sawara.com/>

PFI事業

個別事業